

平成 22 年度 校内研修(究)計画書

十和田市立北園小学校

1 学校の教育課題

教育目標 三本木開拓の精神に学び、郷土の発展に寄与する人間の育成

<かしく> 創造力があり、未知を切り開く子ども

<やさしく> 情操豊かで、意志の強い子ども

<たくましく> 体が健康で、たくましい子ども

本校の児童は、明るく元気で素直な子どもが多い。保護者は協力的で、教育に対する関心が高く、自分から進んで学ぶ態度と力をもつ子どもになって欲しいと願っている。

20 年度から始まった学びタイムや学習における機器活用・放送番組の活用の在り方に関する校内研修等の取り組みの成果として、学力検査の分析においては、どの教科においてもほぼ全ての観点で全国平均を上回っている。前年度に比べ更に向上が見られることから基本的な力は着実に身につけてきていると言える。しかし、国語の「話す・聞く」の到達度が、若干ではあるが他の領域に比べて低い傾向がみられる。自分の考えを、しっかりと言葉や図・表などで表現する力を育て、交流させることで、児童の学力は今以上に確かなものになると考える。

以上のことから、「夢や希望をもち、自分の力で未来を切り開いていく子」を育てていくために、問題を実際に解くだけでなく、自ら問題を作成したり、解き明かしていこうとしたりする「主体的に学ぶ態度と力」を培うことが大切であると考え。そのために、今年度は、子どもたちが学習の主体となることができる(子どもたちが「解決したい」「追究したい」という思いが生じる)教材の開発、調べ学習や操作活動を重視した授業、指導計画や指導体制などを工夫しながら、学びを深める授業のあり方を模索した校内研修を行いたい。

2 本校の研修計画

(1) 研究主題

自ら考えたことをもとに、「対話する力」を育てる授業の追究

～話し合いの視点を明確にした 交流活動を通して～

(2) 主題設定の理由

① 学習指導要領との関連

平成 23 年度から完全実施される新学習指導要領では、知識・技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力などの育成、言語活動の充実、学習習慣の確立などを謳っている。

また、平成 18 年 2 月、中央教育審議会の教育課程部会「審議経過報告」では、知識・技能の習得と考える力の育成との関係を明確にする必要があることから、次のように述べている。

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることを基本とする。
- ・理解・定着を基礎として、知識・技能を実際に活用する力の育成を重視する。

・知識・技能を活用する力を基礎として、実際に課題を探究する活動を行うことで、**自ら学び、自ら考える力を高める**ことが必要である。

これらのことから、学習の順序としては、基礎的基本的な知識・技能の定着から活用できる力の育成、探究力の育成へと推移していくものとしている。

②児童の実態、学校や地域の課題との関連

「本校児童に必要な力」の分析では、「本校児童は、自分の考えを表現する方法は身につけてきてはいるものの、互いの発表から自分の考えをさらに深化させるような学びができていない。」という意見が出された。

学びを深めていくことは、交流活動の中でそれぞれの考えの特徴や有効性、共通性、関連性を比較検討し、より良い考えを導き出す活動であり、この活動によって児童は自分の考えを深め学習内容の理解をより確かなものにすると考えられる。

それ故に、他者との関わり合う交流活動における発問や支援を工夫したり、話し合いでの言い表し方(書き表し方)等の表現の仕方を学ばせたりすることが必要である。

そこで、自ら話したり聞いたりすることの楽しさを味わわせるとともに、**自分の考えをもとに、練り合い、より良い考えに高め合うことのできる「対話力する力の育成」**ができる授業の在り方について研究を深める必要があると考え、本研究主題を設定した。

③これまでの研究の成果と課題の関連

21年度までの研究では、学校放送番組やデジタルコンテンツや各種情報機器を活用することにより、資料の読み取りや内容理解が深まり、自分なりの考えを明確に持つことができるようになったという成果が得られた。

また、ペア交流、グループ交流、全体交流、また課題別交流等、発達段階や学習内容に応じて交流の仕方を工夫することで、自分の考えに自信を持って伝え合うことができるようになった。さらに、それぞれの交流場面で、異なった観点や視点で話し合いを進めることで、思考に広がりが見られるようになった。以上のことが大きな成果としてあげられる。

今後は、各種ICT機器の活用の日常化を図るとともに、**思考がさらに深まり、追究を続けていこうとする態度と意欲が持続できるような、交流場面における発問や支援の在り方を研究し、児童の「対話する力」の育成に努めていきたい**と考える。

(3) 研究目標

より良い考えに高め合う「対話する力」を育てるためには、お互いの考えを伝え合い、相手の思いや考えを理解する場を設定し①、話し合いの視点を明確にした交流場面の在り方を工夫する② ことが有効であることを、実践を通して明らかにする。

① 「お互いの考えを言葉で伝え合い、相手の思いや考えを理解し、」

確認・共有の段階において(交流を通しての学びⅠ)

一人一人の考えの根拠を明確にして、全体で共有を図る。

② 「話し合いの視点を明確にした交流場面の在り方を工夫する」

比較・検討の段階において(交友を通しての学びⅡ)

児童から出された一つ一つの考えについて、その特徴や有効性、共通性、関連性を比較・検討する。(それぞれのタイプに合わせた発問支援の工夫)

学習活動の流れ

個の学び

自力解決の場

学習課題を把握する
解決への見通しをもつ
筋道を立てて考える



交流を通しての学びⅠ

一人一人の考えを確認、共有する場

- ①相手意識をもってわかりやすく話す
- ②根拠をもとに話す
- ③新たな考えに気付く



交流を通しての学びⅡ

一つ一つの考えを比較・検討する場

- ①自分の考えと比較する
- ②友達の考えの良さを取り入れようとする
- ③より良い方法を追求する



高まった個

自分の考えを振り返る場

交流を通して明確になったことをもとに
自分の考えを見直したり再構築したりする

研究のポイント

明確な学習のねらいを持った
指導計画

分かりやすく伝えるための
言語技術

学習のねらいを達成するため
視点を明確にした交流の型
有効な発問・支援方法

本校では交流を通しての学びの場(伝え合う場)で発問や支援の工夫をすることが「対話する力」を育てるのに有効であると考え研究を進める。

(4) 研究仮説

学習のねらいに応じて、話し合いの視点を明確にした交流場面を設定し、発問や支援を工夫すれば、互いに高め合おうとする対話の力が育つであろう。

(5) 仮説の検証に向けて

○話し合いの視点の選択

本時の学習目標の達成に向けて、適する練り合いの視点を選択する。

- ・尊重型の練り合い
- ・順位型の練り合い
- ・集約型の練り合い
- ・分類型の練り合い

○発問や支援の工夫

- ・練り合いの型に応じた発問の工夫
- ・練り合いの型に応じた支援の工夫
- ・自分の考えを分かりやすく伝えるための言語技術

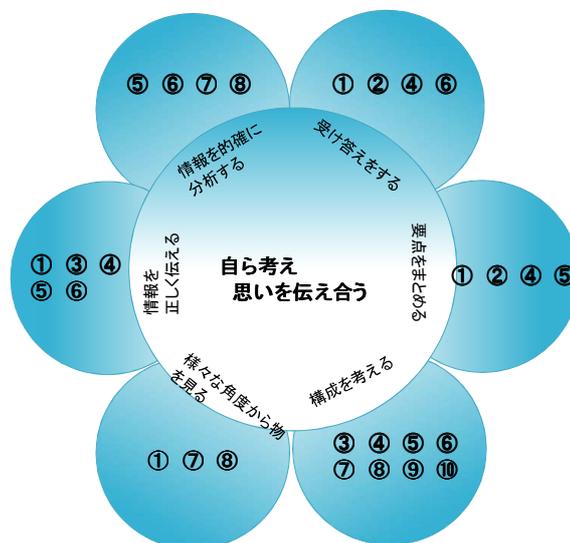
話し合いの視点と支援

話し合いの視点	支援の方針	発問などの支援の要素	発問例
尊重型の練り合い	考えの特徴に着目させ、さらに深めさせる	それぞれの考えの特徴に着目させる発問等 それぞれの考えへの理解を深めさせる発問等	～さんの考えと自分の考えの違いはどこですか？ この考えには、他の考えにはないことがありますね。
順位型の練り合い	考えを比較し最も有効な考えに気付かせる	それぞれの考えの相違点に着目させる発問等 有効性から、それぞれの考えを順位づけさせる発問等	別な問題でも、同じように使える考え方はどれですか。 どの考えが正しく早く答えを出せますか。
集約型の練り合い	考えの共通性に着目させ、一つにまとめさせる	それぞれの考えの共通性に着目させる発問等 まとめつつある考えが学習課題の解決に適しているか考えさせる発問等	それぞれの考えに、似ているところはありますか。 まとめられた考えが本当に正しいか考えてみましょう。
分類型の練り合い	考えを分類し、その関連性に気付かせる	それぞれの考えを分類する視点に着目させる発問等 ほかの考えでも学習課題を解決できるか考えさせる発問等	それぞれの考えを(時間、場所、人物、方法、目的等)で分けられませんか。 分類した考えの間には何かつながりはありますか。

自分の考えを分かりやすく伝えるための言語技術

言語技術の内容 (最小限指導しなければならない事)

- ① 主述を整える
- ② 一文を短く
- ③ 全体から部分へ
- ④ 接続語・指示語を使う
- ⑤ 情報を分類・整理する(ナンバリング・ラベリング)
- ⑥ 根拠を明らかにする(具体例・体験・引用)
- ⑦ 比較する(共通点・相違点・対比・類似)
- ⑧ 関連付ける
- ⑨ 一般から具体へ(演繹)
- ⑩ 具体から一般へ(帰納)

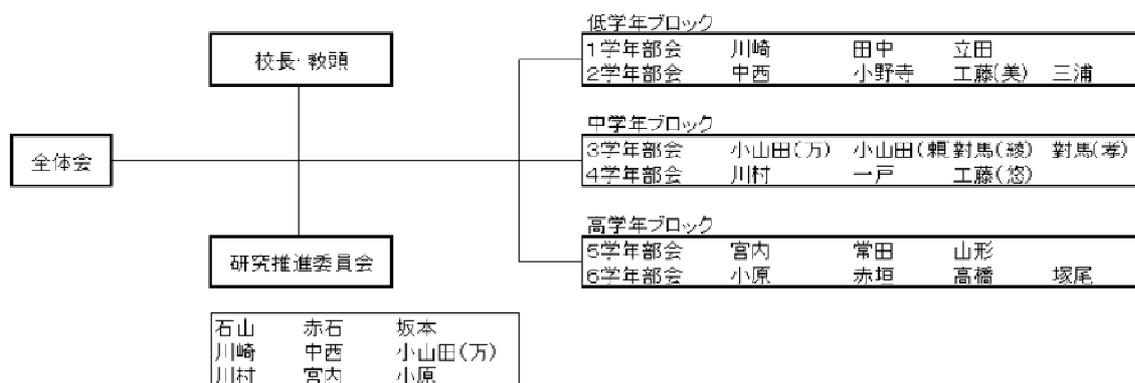


(6) 研究日程

	内 容	方 法	教科・領域	要 請 指 導 主 事
4 月 16 日	今年度の研究について①	全体協議		
4 月 23 日	今年度の研究について②	全体協議		
5 月 14 日	今年度の研究について③	全体協議		
6 月 11 日	指導案様式検討	全体協議		
8 月 17 日	指導案検討 4 年 6 年 2 年	学年ブロック 全体協議	算 数 国 語	
8 月 27 日	提案授業 4 年	全体協議	算 数	
9 月 3 日	提案授業 6 年	全体協議	国 語	
9 月 15 日	提案授業 2 年	全体協議	算 数	
10 月 20 日	ブロック指導案検討	低・中・高学年 ブロック	算 数 国 語	
11 月 10 日	提案授業 3 年	全体協議	算 数	十和田市教育委員会指導課 課長 補佐 工藤正彦
11 月 22 日	提案授業 5 年	全体協議	国 語	十和田市教育委員会指導課 指導主事 原田 克人
12 月 1 日	提案授業 1 年	全体協議	算 数	十和田市立東小学校 校長 柏崎 久美子
12 月 15 日	研修のまとめ	全体協議		
2 月 4 日	研修のまとめ	全体協議		
2 月 18 日	次年度の研修の在り方について	全体協議		

(7)備考

①校内の研究組織



②研究方法

- 全体会・研究推進委員会で全体的な推進・連絡調整を図り、研究の実際は各学年部会+研修部で推進する。
- 各学年部会では次のような取り組みをする。
 - ・研究主題，研究仮説の検討をする。
 - ・提案授業の単元・授業学級・役割分担・研究日程を決定する。
 - ・資料の収集，教材研究，使用コンテンツの選定，教材の作成，指導案の検討をする。
- 各学年部会での研究の充実を図るために，提案授業の際には，十和田市教育委員会担当指導主事および管内の学校などから助言者を要請する。

3 研修計画

(1) 研修の重点

幅広い教育活動を支援できるような技能を身につける。

(2) 研修日程

月日	内容	方法	教科・領域	要請指導主事等
6月16日	視聴覚機器等 使用方法	講義・実技	一般	校内講師 教諭 石山 宏一
6月30日	生徒指導研修会	講義	生徒指導	青森県 学校教育センターより
8月9日	図工指導法	講義・実技	図工	校内講師 教諭 對馬 綾子
1月13日	県外研修等報告会	報告		

研修主任	石山 宏一	研究指定の有無	無
当研究主題での 取り組み年数 1年			